

こくさいは にほんじん
国際派日本人養成講座
 伊勢雅臣

えた身分差別解消への理想

2020年7月19日版

1. 「建国の父」ジョージ・ワシントンの像まで

倒す黒人暴動

米国ではミネソタ州での白人警官による黒人暴行死をきっかけに暴動が続き、「建国の父」初代大統領ジョージ・ワシントンの像まで「黒人奴隷の所有者だった」という理由で暴徒に倒されました。ワシントンは確かに大地主として奴隷を所有していましたが、当時の慣習からみれば、はるかに温情ある扱いをしていました。奴隷制度は何とかなしたいと考えていたようですが、まずは新国家建設が当時の最重要課題でした。

その後の米国民の様々な努力が積み重なって、今日、法的政治的にはまったく差別のない制度が築かれたわけですが、世界の中でアメリカほど、この問題に苦闘を続けてきた国民はいないと思います。

当時の時代背景も、本人の苦闘も、また米国民の2世紀にわたる苦闘の足跡をも一顧だにせず、200年後の今日の価値観から、奴隷を持っていたというだけで「建国の父」まで否定する、というのは、人種対立を燃え上がらせて、米国民社会の亀裂を深めるだけです。黒人の生活を今より良くするはずもありません。

2. 中学歴史教科書に書かれていないこと

東京書籍の中学歴史教科書は、江戸時代のえた身分等について、次のように説明しています。

「厳しい身分による差別」百姓、町人とは別にえた身分、ひにん身分などの人々がいました。えた身分は、農業を行って年貢を納めたほか、死んだ牛馬の解体や皮革業、雪駄作り、雑業などをして生活しました。また、犯罪者をとらえることや牢番などの役人の下働きも役目として務めました。ひにん身分も役人の下働きや芸能、雑業などで生活しました。これらの身分の人々は、他の身分の人々から厳しく差別され、村の運営や祭りにも参加できませんでした。幕府や藩は、住む場所や職業を制限し、服装などの規制を行いました。これによってこれらの身分の人々に対する差別意識が強まりました。【東京書籍 P115】

この記述には、以下の3つの重要な史実が書かれていません。

1) 江戸時代以前は、えた身分の人々は、常民には不可能な「穢れ」を清める仕事をもち、皇室や寺社に直属する特権職能集団でした。

2) 江戸時代には差別はされつつも、独自の職業収入によって通常の百姓よりも豊かな人々が珍しくありませんでした。

3) 江戸時代後半には、えた身分も同じ人間であり差別するのをおかしいという社会常識が広まっていた。

以下、これらの点を史実で見えていきましょう。なお、えた身分ひにん身分には職能毎、地方毎に多くの名称があり、本稿では引用を除いて、えた身分と一括して呼びます。

3. 「清目」の職能をもって皇室や寺社に直属する特権職能階級

鎌倉時代には非人に対する体制的な蔑視・差別は決して出現していない、と私は考えている」とは、中世日本史の研究者・網野善彦氏の言です【網野608】。氏はこう指摘します。

「鎌倉時代には非人に対する体制的な蔑視・差別は決して出現していない、と私は考えている」とは、中世日本史の研究者・網野善彦氏の言です【網野608】。氏はこう指摘します。

4. 天皇や神仏の権威低下によって差別されるようになった

しかし、南北朝の動乱以降、武力や世俗的な政治力がものを言う時代になり、天皇や神仏の権威が低下すると、職能の地位も下がっていききます。特に死んだ牛馬の解体のような「穢れ」に関わる職能は、かつての特権が差別の要因になっていきます。

江戸時代に入ると、幕府の政策で職能に基づく「身分制」が確立され、武士、町人(都市に住む商人や職人)、百姓(農民)と分けられました。さらに大工、鍛冶屋、薬屋など、同じ職能を同一区画に集めて住まわせる集住政策がとられました。

江戸幕府がこうした身分制を確立させたのは、社会の安定を保つためでした。戦国時代のように農民が武装して、いつ領主に反抗するかわからないような、平和な社会は保てません。また大工、鍛冶

5. 封建社会の差別市場経済で得た実力

当時の状況について、オランダ商館付きの医師シーボルトが、文政9(1826)年の長崎から江戸への旅にもとづいて書いた「江戸参府紀行」にこう記述しています。

「ここはもっぱら皮の加工に従事するいわゆるえたがたくさん住んでいる。この人たちは一般に知られていて、非常に低い一種独特の階級に属し、普通は隔離された町に住み、他の村人とは公民として協同体をつくらず、これらの村人の住居にはいることすら許されていない。【斎藤 P104】」

一方、江戸時代に入ってから皮の需要が高まり、日本各地から原皮を集める大坂の渡辺村が成長しました。そこでは年間10万枚もの原皮を扱ったといわれています。そうしたなかで、裕福な皮革業者も生まれました。たとえば、文化13(1816)年に書かれた「世見聞録」には、次のように伝えています。

「大坂渡辺のえたに太鼓屋又兵衛といえるは、およそ七十万兩程の分限にて、和漢の珍珍倉庫に充満し、善後おかたならず、美妾も七八人ありといふ。【斎藤 P125】」

嘉永3(1850)年に履き物の原材料である竹皮の値段が急騰した際には、大坂周辺17カ村のえた身分の人々が閉結して、市中の竹皮問屋と交渉し、卸売り値段の値下げに成功したという記録も見られます。【斎藤 P129】

えた身分の人々は、封建的な身分制のもとで日常的な差別は受けつつも、それを跳ね返すように、皮革加工や履き物製造など特定の職能を通じて相当の経済力、交渉力を持つに至ったのです。

6. 飢饉も逞しく生き抜いた人々

えた身分の中には、農地を所有して農業を営む人々も現れました。当時の安定・確実な生産手段は農業だったので、金銭的な余裕がでると農地を買ったようです。河内国池田村では「かわた」と呼ばれた、えた身分が28戸あり、すべて農地を持っていました。その平均は8.4石で、一般農民の6.5石より多かったという記録が残されています。【斎藤 P154】

江戸時代の中・後期になると、えた身分の人々に農地を売ることを禁止する藩も出てきます。これは、えた身分の農地取得が拡大しつつあり、それを阻止しようとした動き、と見られています。そういう中でも、えた身分の人々が堂々と領主に訴えて争った事例も記録されています。【斎藤 P157】

江戸時代の人口は前半は急激に増加しますが、中期から後期にかけては停滞します。ちょうど地球が寒冷期を迎えて、享保、天明、天保と大飢饉が続いたからです。しかし、その間も、えた身分の人口はほぼ順調に増え続けました。その理由としては、農業とともに皮革業その他の職業をもっており、農業一本槍の農民よりも生活は安定していた、と考えられます。

7. 尊皇派からの「二君万民」の理想による差別批判

江戸時代後期には、えた身分への差別を批判する考えが徐々に広まっています。尊皇攘夷論者だった加賀藩士・千秋藤篤は、「穢多を治むる議」のなかで、えた身分の人々を「醜類」とみなして差別する人々を批判して、「いずくんぞ人にして、獣性の者あらんや」と指摘しています。この「議」は部落解放論の先駆けとされています。

長州の高杉晋作が組織した奇兵隊は、身分制度にとられず、農民や町人のみならず、えた身分も兵隊に取り立てていました。軍隊で活躍することは、世界各地で見られる差別打破の早道です。第2次大戦では米国の日系部隊が欧州戦線で大活躍し、日系人差別を跳ね返すきっかけを作りました。

千秋藤篤にしろ、高杉晋作にしろ、尊皇派が差別に反対したことは偶然ではありません。高杉晋作の師・吉田松陰は、古代日本の理想から、天皇のもと万民は平等という「二君万民」を唱えていました。身分差別政策は徳川幕府の封建制度の一部であり、我が国では「二君万民」こそ本来の理想で、民はずべて平等な「大御宝」でなければならぬと考えられています。

8. えた身分の「賤称」廃止

幕末の混乱期に、「えた」「ひにん」の「賤称」廃止に貢献したのがえた身分を率いた弾左衛門でした。弾左衛門は関東一門の6千軒もの皮革業者を統制する強大な権限を幕府から与えられていました。薩長に迫りつめられた幕府を助けようと、弾左衛門はえた身分の者で歩兵一大隊を作り、幕府から人数分の銃砲を借りたといわれています。

「食費だけでも月二千両もかかりますが、それは皮革業者、芸人、吉原の遊女など、えた身分に一定の税をかけてまかなう。「えた」という「賤称」を廃止してもらうことを条件として、この協力を幕府に申し出たのでした。將軍の許しも出て、幕府は手始めとして弾左衛門と手代65名の身分を「士分」に引き上げました。【塩見】

しかし、そこで幕府が崩壊し、明治維新となり「穢多非人」称号廃止身分職業平民同様に「士」と定められました。しかし、これに反対する平民たちが各地で暴動を起こしました。人の意識はすぐには変わっていきません。その後も差別撤廃に向け、長期間の地道な努力が続けられました。

弾左衛門は同年、私財を投じてアメリカの靴職人を高給で呼び寄せ、配下の皮革職人たちに、西洋的な軍装に必要な靴やベルトなどを作る技術をも身につかせました。皮革職人たちに国家の必要なるものを作らせ、国民として処を得させるための手段でした。【参考文献】

WIKIPEDIA CONTRIBUTORS.
 "白丁". WIKIPEDIA. WIKIPEDIA.
 DIA. 11 JUL. 2020. WEB.
 11 JUL. 2020.
 網野善彦「中世の非人と遊女」★ 講談社学術文庫(KINDLE版)、H17
 齋藤洋一、大石慎三郎「身分差別社会の真実」★ 講談社現代新書
 H7
 塩見新一郎「解放令の明治維新―賤称廃止をめぐる一頁―」★ 河出ブックス(KINDLE版)、H23
 東京書籍「新編新しう社会歴史」平成28年度採用★ H27

9. 差別解消に向けて人々を覚醒させる理想

こうして「和の国」にふさわしくない差別は、えた身分の側の努力、国民の有志の言挙げ、国家の政策を通じて、一步一步改善されていきました。特定の人種や職能に対して差別をするのは、どこの国にもあることですが、大切なのは、その解消のための努力がどれほどなされたかです。これは同時代の他国と比べると分かります。

たとえば、朝鮮半島ではやはり皮革業を行う「白丁」が最下級の賤民とされ、文字を知ること、葬式で棺桶をつかうこと、墓碑を建てることまで禁止され、この差別は1909年の日本統治時代によりやがて撤廃されました。身分解放された白丁も学校に通うことが許可されましたが、貴族階級の両班は抵抗活動を繰り返して、日本政府はこれを断固として鎮圧しました。WIKIPEDIA

差別は、人間が他者を見下す事で虚栄心を満足させようとする人間心理の醜い面から出てくるものです。それを克服するには人々に正しい方向を指し示す理想が必要なのでしょう。我が国においては「二君万民」という「和の国」の理想が、差別解消に向けて人々を覚醒させる力となったと言えそうです。【文責 伊勢雅臣】

※これを読めば自然に、日本の文化や歴史に関心ももてるような話を毎週掲載しています。より多くの二世の方や日本語学習者に読んでもらい、少しでも日本に興味を持ってもらえるよう、最寄りの日本語学校や日系団体の掲示板に張ったり、普段は邦字紙を読んでいる兄弟や子や孫などに記事を紹介してください。
 (ニッケイ新聞編集部)

この政策のもとで、皮革業や革を用いた草履を作る職能民などが村の一角に集まり、これがその後の「部落」となっています。

こうした事実から、えた身分の人々は社会的な差別はされていましたが、だからといってすべて経済的にも窮乏していた、という見方は成り立たないようです。【斎藤 P115】

えた身分の人々は、封建的な身分制のもとで日常的な差別は受けつつも、それを跳ね返すように、皮革加工や履き物製造など特定の職能を通じて相当の経済力、交渉力を持つに至ったのです。

えた身分の中には、農地を所有して農業を営む人々も現れました。当時の安定・確実な生産手段は農業だったので、金銭的な余裕がでると農地を買ったようです。河内国池田村では「かわた」と呼ばれた、えた身分が28戸あり、すべて農地を持っていました。その平均は8.4石で、一般農民の6.5石より多かったという記録が残されています。【斎藤 P154】

えた身分の人々は、封建的な身分制のもとで日常的な差別は受けつつも、それを跳ね返すように、皮革加工や履き物製造など特定の職能を通じて相当の経済力、交渉力を持つに至ったのです。

国際派日本人養成講座
 発行人=伊勢雅臣(文責)
 Mail: ise.masaomi@gmail.com
 Twitter: https://twitter.com/ise_masaomi
 無料購読申込・取消: http://blog.jog-net.jp/

PDF版紙面 スマホ PCで 新聞を読む 好評配信中

徳方啓三 知っておきたい日本の歴史 (16)

画期的だった日英同盟



柴五郎中佐 (Unknown author / Public domain)

このまま黙認すればロシアは、更に兵員を増やした。...

国家の命運をかけた日露戦争

1904年2月に、日本はロシアに国交断絶を宣言し、開戦を通告した。...

《補講》日露戦争を戦った日本人

秋山好吉(1859-1930) = 奉天会戦で騎兵隊指揮者として、ロシアのコサック騎兵団と戦いました。...



秋山真之は海軍中將、大日本帝國海軍。...

海戦で海軍参謀として完璧な戦術を作り出しました。「本日天気晴朗ナレドモ波高シ」と大本營に打電し、そして日本海海戦が始まり、世紀の大勝利を導きました。...

《補講》日本の実業家の伝統を作った渋沢栄一



渋沢栄一 (Unknown author / Public domain)

超有能な明治時代の実業家で、『論語と算盤』を著し、日本の実業家の模範となりました。...

1840年生まれ、6歳で中国の古典を読みこなし、1864年、24歳で武士の身分を得、第15代将軍徳川慶喜に仕えました。...

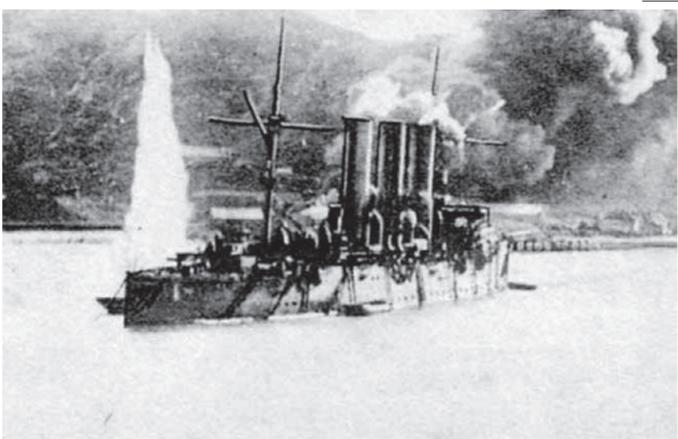
第4節 近代産業と近代文化の形成

近代産業の発展とその背景

日本の産業革命は、明治政府の手によって海外で発展している工業を見習って進められた。...

《資料》日本が英国と同盟を結んだ理由

- 1) 一英国は領土拡張の野心を持たない。通商利益と現状維持を望む。
2) 一英日同盟は平和防衛的なものとして、国際世論からも支持される。
3) 一英国と結ぶと清国が益々日本を侮れなくなる。
4) 一英国が中に入るとロシアが大人しくなり、話しやすくなる。
5) 一ロシア海軍は英国海軍より弱い。
6) 一通商的に見ると、イギリスの方がロシアよりはるかに上であること。



日露戦争時の様子 (Original uploader and author was Dustandshadow at en.wikipedia / Public domain)



1908年、10月、アメリカ力は大西洋艦隊の16隻の白く塗られた艦船を横濱に入港させた。...

《補講》明治国家を背負った政治家・伊藤博文



伊藤博文 (Unknown author / Public domain)

伊藤博文は、明治の3傑と言われる。西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允の3人が1877年ごろ相次いで没した後を継いで、明治時代を作りあげた政治家です。...

この頃には街角には時計が置かれ、正確な時刻に合わせて生活習慣が広がりました。...

特別寄稿 我が青春の思い出 (中)

聖市イピランガ区在住 小池庸夫

そうしてその日語学校は、田舎の農家の子供を預かり、日語だけでなく日本精神を学ぶため、経費としては各々の農家で取れた生産物を持ちよって、食事代として宿泊費は無料で子供達を預かっていたのであった。そういった中で大人は私一人、特別に宿代、食事代として月4000円を支払うことで話し合いは成立した。

やと今まで培ってきた自分の腕が発揮出来る時がやって来たのだ。念願が叶った喜びに勇み、意気揚々とカッポンコートに引き返す。そして一部始終を話し、お話しをしよう。

先に奥様とも話し合っておくことでもあり、パトロンの言葉「お前がサンパウロに行くことについて、何も反対はしない。呼び寄せるに当たって費用もかかってるので、何も援助は出来ない。しかし、もしサンパウロで職にあふれ行く所が無くなったら」という時、ここが我が家と思いつく時でも帰ってこい」という有り難い言葉も頂き、そして「決して変な女(！)に引っかけなよ。日本の親に申し訳ないから」とも。

日本から来てまだ1年と8ヶ月、録音ポルトガル語もはなせないままカシキ区ローパス・レジエンシアのある日本語学校の橋詰さん宿舎へ。そして最初の出社日、あの気難しい橋詰氏が私に同行してくれた。まるで息子の門出のごとく、門番(ポルティゴ)に向かつて「この青年は我が息子同様に扱ってあげよう」と挨拶に行こうとする。有り難くもあり、又微笑ましい情景でもあった。

この会社のマルセニア部で働くようになって知った事は、紳士服専門ローシヤ・ガルボ専用の縫製工場、女工さんばかり約300人、工場内設備の棚を作ったり、女工さんの座る椅子を直したりした。私以外にもう一人ローシヤ人の職人が居た。

何か身振り手振りで会話で馴れ始めた頃、従業員出勤カードを打つ機械が導入され、どうすれば良いのか分からず、キョロキョロしていたところ、一人の日系女性に声を掛けられる(！)。運命の出逢いであった。

カードの打ち方を教わり、その時「ニーチャン、今いくら給料貰っているか」と聞かれる。実はためらうこともなく18000円だと答える。実は

3女マリア、その下エリナの4人。その下に何も無い14〜15歳の極端息子一人居た。さて運命のいたずらも言うべきか。私が一番引かれていたレジーナ長女は、何と私より年上。そればかりか彼女は既に婚約者が居て、近いうちに結婚の運びとなっていたのである。

問題は、三女マリアはマルセニアのジェレンテ(支配人)で父親以上の権限を与えられていて、体格も私より大きく、年は同年代。

父親、社長は名ばかりで、体もよく、午前中ちやうど顔を出し図面を書いたり書類に目を通すだけ。午後になるとさうさう引き上げてジョッキ(競馬)にいりたり。

そう言ったことで、住居が一緒なので、たまには親父さんの車でマリアと一緒に送り迎えしてもらう事もあった。が大抵の日は午後になると「庸夫、頼んだぞ」といって、先に帰ってしまう。仕方なくマリアと工場を閉めて一緒に帰る日が多く、ピニエロス教会の近くにロタワンのポイントがあり、そこでマリアとサンパウロ通りを歩く。

土曜日ともなれば、朝からマリアは美容院にいつて最高のおしゃれを施し、太って大柄だが、どのお嬢様であろうかと思われるばかりの厚化粧をして、さうと私を用心棒の如く従えて、まるで番犬の扱い。道行く人の中には知り合いが挨拶を交わす。そんなときに冗談に「ヌウ・ナモラダ」と言っていていたなら、又微笑ましくもあつたらうけれど、

Empregado de meu pai (この人は父の従業員)だった。その程度としか受け入れていなかった。それでもまだラジールに来て2年ちょっとの産前私ならば、まあまあで、通りすぎた。

工場内には職人が5、6人いて、そのなかでジョゼさん、日系二世が居て、どんな仕事にも経験豊富な職長だった。この人にはすいぶん色んな事を教えて頂いた。他にルーベスというイタリア系と若い者2人、それに塗装専門のおじさんとジェレンテのマリアだった。

か。かえすがえすも残念に思う出来事であった。そういつたライアに建つアパルタメントは、サンパウロの実業家の持ち主が多く、2号や3号に住まわせて優雅に週末を過ごす場所なのだ。本妻はサンパウロの高級住宅に住まわせて。

そうして次第に山田氏とも信頼関係が生まれ、週末等、暇の時、将棋を打ったり家族同様の関係が結ばれた。

そんなある日、家族の誰かの誕生日が開かれ、娘の多い家族であり、其の夜、バイレ(ダンス・パーティー)が始まった。

私も招待を受け、隅々の方に座っていた。20歳になって青春を謳歌することもなく、移住して来て只働けばいい。今迄ダンス等踊った事もない。皆楽しんで騒いでいた。

ふとどちらからともなく目と目が合うと言うか誘われてレジーナと踊る事となった。ステップなど知らない。只音楽に合わせて足踏みしているだけなのに、不思議に彼女と意気投合。

びたりと体を寄せあい、頬寄せあつて暫しの間ウツトリとハッサー、ハッサーム、ハッサー。そうしている内に恥ずかしながら、私の下の息子が「ヨキヨキといきり立つて来る。

もう仕方ないので、彼女の股の間にいておく。相手も気付いてくれたのか、知らぬ顔して、股の間に挟んで居てくれた。そのまま右に体を動かすだけ。その内、音楽が終つてしまふ。元の席に戻らなければならぬ。

頼まれ、そういつた折りのこと、一人の日系二世、私と同年代の青年が入社してくる。仲間が出来、その事について異存はないのだが、後で知る。私より彼の給料が多く支払われていたのだ。特別彼の方が仕事が出来ると言うわけでもなく、技術に於いても決して引け目を取って居たわけでもなく、私の方が先に入社していた。

お化けは郊外に引越す? 現代は「トンネルを車で通ると、後ろから落ち武者の霊が迫ってくる」といった話があった。

【共同】大正時代は街中に出没していたお化けが、現代は郊外に引越した。富山県で地理学を専攻する富山大学地理学会が今年2月、日本地理学会の専門誌「地理」に掲載された。執筆した鈴木晃志郎教授(地理学)は「一つかみどころの奇妙現象を、数値化して客観的に捉える新しい試み」と話す。

鈴木さんには、主に大正時代に富山県の地元紙に連載された怪談話を集めた「越中怪談紀行」から、奇妙現象が起きた62地点を抽出。一方インターネットの怪談サイトなどから県内にある現代の心霊スポット52地点を調べた。

大正時代の例として「大樹の下に立つ老婦人」が、抱いた赤子を往來する人が、投げつけてくる。「深夜、風呂屋の前」に女の幽霊が現れ、行き先を尋ねてくる」など。



最初に呼び寄せられた山下徳丸ご夫妻。カッポンコート市。



マルセニアで働いていた青春時代に撮影した一枚

